

第6回丹沢大山自然再生委員会事業計画・評価専門部会 開催概要

日 時：平成20年1月16日(水)18:30～20:30

場 所：かながわ県民センター

出席委員：羽山伸一（部会長）、糸長浩司、勝山輝男、鈴木雅一、羽澄俊裕、
原慶太郎、川又正人、松田宏一、内海規、岩崎和男

オブザーバー：石井隆、有川百合子

概 要（議題と主な意見）

(1) 自然再生計画の実施状況と進行管理について

ア 事業の実施状況について

- ・ 個々の事業の連携がとれていないのではないか。

統合再生流域を中心に庁内会議で連携・調整中（事務局）

イ 再生計画の順応的管理について

- ・ 考え方としてはわかるが、実際に効果があるように具体的に何をするかを考えるべき。
- ・ 県民への情報発信については、e-Tanzawaによる提供だけではなく、ワークショップなども含め幅広くとらえるべき。協働という観点から県民をつなぐ枠組みが必要。
- ・ 市町村が使える形での情報提供が重要。
- ・ モニタリングを事業に組み込めばよいのではないか。

県単事業で少しずつ実施（事務局）

ウ 再生計画に係る解析について

- ・ 外来生物リストについては、リストが意味するところをわかりやすく示すべき。
e-Tanzawaで公表する際に対応予定（事務局）

(2) 自然再生計画と自然再生委員会の進め方について

自然再生委員会として、モニタリングや総合解析、事業の点検・評価をどのように、どこまで行うのか、県設置の検討会との関係も含めて議論

- ・ 再生計画の8つの特定課題と東西の統合再生流域ごとに課題出しを行うのがよい。
- ・ 県の検討会で整理したものを専門部会で議論すればよい。
- ・ 総合解析を再生委員会の専門部会が行うのは無理ではないか。
- ・ ワークショップ形式で総合解析を実施し、個別テーマごとにプロジェクトを立ち上げ、専門部会に報告。専門部会から県計画にフィードバック（別添イメージ図参照）

再生計画の順応的な実施のための総合解析イメージたたき台

